

令和4年度 施政方針

ぐ こう
(愚公 山を移す)

(令和4年第1回川島町議会定例会)

令和4年3月2日

川 島 町

それでは、議長のお許しをいただきましたので、本定例会においてご審議をいただきます諸案件に先立ちまして、令和4年度の町政経営に関する基本的な考え方を申し述べさせていただきます。

今年に入り、新型コロナウイルスの変異株であるオミクロン株の感染が急拡大し、いまだ、収束のきざしが見えません。本町でも、これまでに累計で400人以上が感染し、小・中学校でも学級閉鎖や学校閉鎖の措置が取られるなどしました。改めて、感染されたご本人や周りの方々にお見舞いを申し上げますとともに、今も最前線でご尽力いただいているエッセンシャルワーカーの皆様に深く感謝申し上げます。私たちは、何としても新型コロナウイルス感染症の波を乗り越えていかなければなりません。町民の皆様お一人お一人が感染症を正しくおそれ、お互いに助け合うという気持ちが一番であります。引き続き、ご協力をお願いいたします。

昨夏の東京オリンピック・パラリンピックに続いて開催された、北京冬季オリンピックは、2月20日に閉会となりました。日頃の練習の成果を出せず残念な結果となってしまった選手もおりましたが、前大会の平昌^{ピョンチャン}オリンピックを大幅に超える18個のメダルを獲得し、特に十代、二十代の選手が躍動する大会となりました。この日のために、少しでも速く、少しでも高く、少しでも強くと、自己を研鑽してきた姿に、日本人を含め、多くの方たちが感動と勇気をもらいました。

今大会のモットーは、

トゥギャザー フォー ア シェアード フューチャー
「Together for a Shared Future」

“未来に向かって一緒に”、であります。

昨年、議決していただきました、第6次川島町総合振興計画も、令和4年度からが実質的なスタートの年となります。この大会のモットーと同様、議員各位はもとより、町民の皆様、職員とともに、まさに「ワンチーム」となって、川島町の未来に向けたまちづくりを進めていきたいと、改めて感じたところであります。

(新型コロナウイルス感染症への対応)

昨年、全国で実施されました新型コロナウイルスワクチン接種事業。本町におきましても、町民の皆様の意識の高さがうかがえる、非常に高い接種率となりました。しかしながら、オミクロン株の感染急拡大により、町内の感染者も急増している状況であります。社会機能を維持するためにも、新型コロナウイルスワクチン接種の追加接種（3回目接種）は、迅速かつ適切に実施してまいります。

また、学童保育かっぱくらぶに貸与している中山小学校内のトイレを、感染症対策に配慮したものに改修するとともに、小・中学校の特別教室についてもエアコンを設置し、新型コロナウイルス感染症への対応を拡充してまいります。

(デジタル化の推進、新たな行政サービスの導入)

昨年、策定いたしました川島町DX（デジタルトランスフォーメーション）推進計画は、行政サービスの向上や業務の効率化に

取り組んでいく計画で、令和4年度からの5年間の計画となっております。町民の皆様のご利便性を向上させる、真のデジタル社会を実現するために、計画された諸施策についてスピード感を持って推進してまいります。

具体的には、マイナンバーカード等を活用して、各種申請書を書かずに手続きする「書かない・待たない窓口推進事業」や、タブレット・チャットツールの導入とオンライン会議用パソコンの増設を図る「ペーパーレス会議推進事業」、マイナポイントの予約、申込手続きを支援する「マイナポイント手続き支援事業」、テレワークやサテライトオフィスを推進する「公共施設 Wi-Fi(ワイファイ)環境向上事業」などを、新規事業として取り組んでまいります。

また、デジタル化の推進に必要不可欠とされるマイナンバーカードは、町民の皆様のご協力によりまして、当初目標としていた交付率50%を達成することができました。令和4年度は、さらに高い目標を掲げるとともに、マイナンバーカード等を活用した行政サービスにも鋭意、取り組んでまいります。

(町制施行50周年事業の推進)

昭和47年(1972年)に町制を施行した本町は、本年11月3日に満50周年を迎えます。これまで営々と築いてこられた先人の皆様へ、深い感謝と敬意を表しますとともに、これからも、いきいきと元気なまちで居続けられるよう、改めて意を強くしたところであります。各種記念事業や記念式典を行い、町民の皆様とともに節目の年をお祝いしていききたいと考えております。

（災害に備える環境整備）

四方を川に囲まれた本町にとって、浸水・水害対策は最重要課題であります。現在、町では町外への広域避難を推進しておりますが、一時的な緊急避難場所として、出丸地区内に堤防を腹付け盛土した高台避難場所の整備を進めております。令和4年度は、設計及び測量調査等を行ってまいります。また、安藤川に架かる船原橋や横塚樋管の整備についても心して進めたいと考えております。このほかにも、自主防災組織の充実や水防団員の処遇改善、防災備蓄品整備等、町民の皆様のくらしを守る事業に意を用いております。

さらには、障がい者福祉施設（グループホーム）整備等支援事業や農地耕作条件改善事業、かんがい排水施設維持管理費補助事業、行政系地域（役場周辺）の将来活用に向けた行政系地域全体構想策定事業等を新たな事業といたしました。

（協働による循環型社会の実現）

近年、地球温暖化や海洋プラスチック問題、脱炭素化、SDGsの推進等、私たちを取り巻く環境への意識は大きく変わってまいりました。サステイナブルな社会の実現には、一人ひとりが力を合わせて問題を解決していかなければなりません。これからは生きる子供たちのためにも、令和4年度は、ごみの減量化の推進の他、新たに推進室を設け、新環境センターの整備・推進についても研究・検討を進めてまいります。

また、来年度から、公益財団法人どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊手術事業（行政枠）」に参加し、飼い主のいない猫に不妊

手術をする取組みを始め、環境衛生の向上と思いやりのある地域社会づくりを進めてまいります。

これらのほかにも、安心・安全な暮らしをまもるため、国や県、関係機関への要望等を精力的に働きかけてまいります。

(人と人をつなぐ)

新たな集いの場を創出する「地域活動センター(仮称)」の開設ですが、令和4年度に開設準備検討委員会を設置し、本町に見合ったセンターの方向性等を検討してまいります。このほか、本町に残る文化財を保護・活用し、歴史や文化を学ぶことができる、かわじま郷土資料館(仮称)開設準備事業や、インターネットを通じていつでもどこでも電子書籍を利用することができる、電子図書館を、比企地区で連携して導入してまいります。

「かわじま未来塾」につきましては、引き続き、支援を行うとともに、町民力の底上げを行い、未来に向けた新しいコミュニケーションづくりも進めてまいります。

(稼ぐ地域をつくる)

地域資源を総動員して稼ぐ力を向上させるため、令和4年度は、地方創生推進交付金を活用し、KJブランド戦略の見直しや各種調査等を行ってまいります。また、令和4年度も埼玉県補助金を活用し、地域おこし協力隊を受け入れるとともに、本年1月に設立した地域商社「一般社団法人さまちか」へ職員を派遣してまいります。

農業分野では、ロボット技術やICT等の先端技術を活用した

機器導入や農産物の販路拡大等を目指す、輝け！農業イノベーション応援事業を創設いたします。

なお、圏央道川島インターチェンジ南側地区については、引き続き、県や関係機関との調整を図りながら、本町の輝く未来に向けたまちづくりを進めてまいります。

(夢を育む学校づくり)

子供たちにとって望ましい教育環境を確保するため、新たに統合設置したつばさ南小学校、つばさ北小学校も、早いもので6年目を迎えます。地域住民の方々はもちろんのこと、学校関係者や保護者の皆様のご理解とご協力により、つつがなく運営できていることに、深く感謝を申し上げます。とはいえ、少子化の波は止められず、児童・生徒数の減少に歯止めがかからない状況です。このため、新たに推進室を設け、さらなる規模の適正化や夢を育む学校づくりのために、学校連携や交流・研究を進めてまいります。

(社会を生き抜く人材の育成)

これからの社会に出ていくための基礎固めを行う小・中学校では、学力の向上も重要な要素であります。しかし、学力は一朝一夕に向上するものではないことから、町ではこれまでも私塾との連携や英語検定・日本語検定の受験（検）推進、放課後児童クラブや外国人児童・生徒への支援等、様々な事業を行ってまいりました。今後も引き続き、体系的な学習支援事業を行ってまいります。

また、令和4年度は将来の小中一貫校を見据え、複数校での水泳授業を実施してまいります。このほか、新中学校1年生には、自転車通学用ヘルメットを町で購入し支給いたします。

子育て支援では、令和4年度に、子供とその保護者や妊産婦への支援を行う、「子ども家庭総合支援拠点」を開設いたします。また、0～2歳児の保護者に、カタログの中から紙おむつや離乳食などの子育て支援用品を選んでもらう事業のほか、子育て支援医療費についても、18歳までの入・通院無料化に拡充し、さらなる子育て世帯の経済的な負担軽減を図ってまいります。

なお、今後の町立保育園の運営やあり方については、保育園経営改革審議会（仮称）を設置し、検討してまいります。

以上、雑ぱくではございますが、第6次川島町総合振興計画の「まもる」「つなぐ」「つくる」「そだてる」の四つの柱に、ワクチン接種やデジタル化の推進等といった「集中戦略」を加えた主要施策を申し上げました。

なお、予算編成は、厳しい財政状況のもと、新型コロナウイルス感染症による危機を乗り越え、ウイズコロナ、アフターコロナに向け新しい社会の実現を目指すとともに、持続可能な行財政運営に主眼をおきつつ、各施策を計画的かつ効果的に展開するものとし、重点的に配分いたしましたところであります。

その結果、一般会計は、75億1,300万円となり、前年度比5億7,800万円、率にして8.3%の増となりました。

特別会計は、国民健康保険特別会計が2.8%減の23億3,300万円、介護保険特別会計が6.9%増の19億2,500万円、

後期高齢者医療特別会計が14.0%増の2億8,244万7千円、そして水道事業会計が3.4%減の6億9,264万4千円、下水道事業会計が10.0%増の11億4,702万3千円となりました。

予算に基づく主要事業は、令和4年度予算案の概要や「令和4年度予算書」をご参照くださいますようお願いいたします。また、傍聴の皆様や町民の皆様にはお手数でも情報公開コーナーや町ホームページでご覧いただければ幸いです。

むすびに、中国の古いことわざで「愚公移山（ぐこう やまをうつす）」というものがございます。とても無理・不可能なようなことでも根気よく努力し続ければ、ついには成し遂げられるというたとえであります。これまであたりまえとっていたこと、常識と思われていたことも通用しない時代となってまいりました。社会情勢や人々の考え方が大きく変化している今、時代のトップランナーとしての気概と柔軟な発想を持ち、山積する課題に真正面に向き合い全力で取り組んでいく所存です。

新たな総合振興計画の基本理念である「ここが好き、やっぱり好き」。「私たちの好きな川島町」が、10年後も20年後も、そして50年後もずっと輝き続けられるよう、町民の皆様並びに議員各位におかれましては、引き続きご支援とご協力を賜りますことをお願い申し上げまして、令和4年度の町政経営に対する方針とさせていただきます。

令和4年3月2日

川島町長 飯島和夫